

『ショックの判断って難しいですよねぇ…』



都道府県名

富山県

所 属

富山県東部消防組合消防本部
滑川消防署

氏 名

開田 達弥

エンブレム

なし

職名・階級

救急係主査・消防司令補

指導救命士養成研修
受講時期

平成29年度
指導救命士養成研修 第2期 修了

「ショックの観察方法がよくわかりません…」、「ショックを疑って輸液をしたんですけど、本当にショックだったのでしょうか…」。

指導救命士となり、後輩からの相談が多くなりました。しかし、ショックに関しては自分自身も弱い部分であり、研修所での講義や郡山先生のシミュレーション指導の内容を読み返して伝えてはみるものの、いかんせんピンときていない様子…。そこで、一層のこと郡山先生に来ていただいて、なるべく多くの隊員に指導してもらえないかと考えました。九州から遠く富山まで来ていただくということで、午前には本部での「救急想定訓練」での指導、午後からは県内の救急隊員が一堂に会す、「富山県下救急隊員研修会」での講演の二本立てにし、当日は郡山先生はじめ、研修所教官の方々にも大勢来県していただきました。

【救急想定訓練】

当本部の想定訓練は例年指導救命士が企画、運営、シナリオ作成、評価をしています。今回はそれに加え郡山先生や教官から多くの指導や助言をいただきました。その中でも郡山先生からは「鑑別ができていない」と私たち救急隊の弱点をズバリ指摘され、今後の課題に気づくことができました。



またショックの際の観察の手順、橈骨での脈の観察方法等、研修所でのシミュレーション実習さながらの熱のこもった指導で、参加した職員が郡山先生の近くに集まって見入るほどでした。教官からは、主に評価の観点について助言をいただき、方向性が違えば一旦止めて軌道修正すること、シナリオの主眼を明確にし、その判断の根拠についてのディスカッションを充実させること等、シミュレーション訓練を進める上での重要事項を再確認することができました。

【富山県下救急隊員研修会】

午後からは、富山県下救急隊員研修会を開催しました。前半は富山県内の指導救命士の活動状況の発表（自分も発表）、研修所教官からの指導救命士養成研修の様子や他県の状況についての説明、後半は本題の郡山先生の講演です。「心不全を極める-現場活動、指導救命士としての指導、MCのあり方-」と題して、富山県の年齢分布からみた心不全の発生状況、それに対する観察の方法として下肺野う音と頸静脈怒張の関係性について等、詳しく説明していただきました。

最後に富山県の搬送実施基準にも触れられ、郡山先生の訴えかけるような熱心な講演に、参加した隊員は圧倒された様子でした。



郡山先生は初来県のため、県内の若い隊員のほとんどが先生の講演は初めてでした。「心不全について漠然としていたが、具体的な対応方法がよくわかった」、「聴診を心がけたい」、「橈骨での観察の重要性が理解できた」など多くの感想が寄せられました。

今回の想定訓練、富山県下救急隊員研修会を企画するにあたって、救急救命九州研修所、富山県、地域MC事務局、他本部、当本部の多くの職員との連絡調整が必要で、通常の救急業務とは違い、苦勞もありました。しかし参加者からの感想を聞いて、やってよかったと安堵しています。

この一日を通してショック及び心不全に対する観察や対応など、多くのことを学ぶ良い機会となりました。今回の訓練、研修会が今後の富山県内の救急隊員のレベルアップにつながることを願っています。